

ニセコ町英語教育推進プラン

1 策定の趣旨

2020年度から始まる小学校の新学習指導要領全面実施に向けて、英語教育の充実・強化を図るとともに、本町の特色や周辺の環境を生かし、幼児から高校生まで連続性のある英語教育の取組を推進するために、本プランを策定するものである。

2 位置づけ

この推進プランは、「ニセコ町教育振興基本計画（後期）」を踏まえ、国の「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき本町の英語教育の充実を目的に具体的な方策を示したものである。

○「ニセコ町教育振興基本計画（後期）」（2018-2022）

【施策8】「ニセコスタイルの一貫教育推進」

- 9年間の一貫した教育方針と目標を設けた小中一貫教育を中心に、幼児センターから高校までが特に連携し英語教育やふるさと学習などニセコスタイルの一貫教育を進める。
- 一貫教育施策の目標
 - ① 自立した人間としての力や確かな学力、ニセコを愛し社会に貢献する心と姿勢などの資質・能力を養う。
 - ② ニセコらしさを最大限に生かした発展的持続可能な教育を実践する。

（事業8-2）特色ある教育の実践（英語教育、ニセコ学）

- ◎英語教育～小学校英語教育の構築、幼児から高校生までの英語教育の連携及び充実、一貫性のある指導内容の作成。コミュニケーション能力の育成。

○文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（2013. 12. 13）

- 初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。
- 小学校3，4年生においては「活動型」の英語教育を学級担任を中心に、5，6年生においては「教科型」の英語教育を専科教員の活用を図り、実施する。
- 中学校の英語の授業は英語で行うことを基本とする。
- 高等学校での英語の授業は発表や討論など高度な言語活動を行うことを重視する。
- 新たな英語教育の在り方実現のための体制整備を図る。（推進リーダー、研修、ALTなど）

3 ニセコ町が目指す英語教育と子ども像

グローバル化が進む今日、本町や隣の倶知安町、蘭越町を含むニセコエリアは海外からの移住者や観光客が年々増加している傾向にある。こうした環境を生かし、ニセコ町の子どもたちが、英語を通じていろいろな人と主体的・積極的にコミュニケーションを図り、自分の思いや考え、意見などを生き生きと伝え合う力を育成していきたい。

幼児期から英語に親しみ、小・中・高校を通して身に付けたコミュニケーション能力や英語力は、変化の激しい今日の社会を生き抜くたくましさの基礎となる。子どものうちに積み重ねた多様な体験や学

習を通して抱いたふるさとへの愛着心や誇りを糧に「未来を切り拓くたくましい人材」の育成を図りたい。

(身に付けさせたい態度や力)

I いろいろな人と主体的・積極的に関わろうとする態度

幼児期から小・中・高校生を始め、高齢者やマチの人、外国人など様々な人たちとの出会い、英語で交流や対話する体験を通して異文化にふれるとともに、人との関わりを積極的に持とうとする態度を養う。また、英語を通して言葉が通じた充実感を得ることで、主体的に英語を学び続けていこうとする態度を育てる。

II 英語を運用する力(4技能)の基礎

小学校6年生から中学校1年生への接続や、小中学校の系統性を考慮したカリキュラムのもと、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を着実に育成し、英語を運用する力の基礎を養う。

III 思いや考えを伝え合う力

授業等において、学んだ英語を使って自分のことを話す、学習した成果を英語で発表する、児童生徒同士が英語で意見交流するなどの活動を通して、児童生徒相互に英語を通じて思いや考えを伝え合う力を育成する。

4 英語教育推進目標と具体的取組の概要

(1) 英語教育推進目標

2020年度の小学校新学習指導要領の全面実施に向けて、小中学校の円滑な接続を図った、「ニセコ町小中一貫英語教育カリキュラム」を作成し、新しい英語教育を推進する。

(2) 各段階の目標

■幼児期（幼児センター）＊3,4歳児隔週、5歳児毎週

- 小学校外国語活動の準備段階として、幼稚園教育要領が示す、「心身の調和のとれた発達」を考慮し、「遊びを通しての指導」を中心に行う。具体的には、身体を動かしながらリズムや音楽に合わせて遊びやゲームを行い外国語に慣れ親しむと共に、小学校での外国語活動の時間にスムーズに移行できるようにする。

■小学校低学年（1, 2学年）＊年間10時間

- 幼児期の英語教育を継続すると共に、小学校中学年における外国語活動へ繋がる取組をする。具体的には、遊びやゲームの中に、「聞くこと」「話すこと（やりとり）」を取り入れ、外国語に慣れ親しむと共に、子どもと担任、子どもとALT、子ども同士の交流を行う。

■小学校中学年（3, 4学年）＊年間35時間

- 外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を養う。具体的には、日本語と外国語の違いに気づくとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。身近で簡単な事柄について外国語で聞いたり、話したりなど伝え合う力の素地を養う。

■小学校高学年（5, 6学年）＊年間70時間

- 外国語による聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を通して、コミュニケ

ーションを図る基礎となる資質・能力を養う。具体的には、外国語の音声や文字・語彙・表現・文構造・言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気づくとともに聞くこと・話すこと・読むこと・書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる基礎的な技能を身に付ける。

■中学校 ＊年間140時間

- 実際のコミュニケーションの場面において活用できる4技能（聞く・読む・話す・書く）の基本を身に付ける。
- 日常的・社会的な話題について理解したり、表現したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。

■高等学校 ＊年間70～140時間

- 実際のコミュニケーションの場面において、主体的・積極的に英語を用いて思いや考えなどを伝え合う力を養う。

(3) 具体的取組の概要

◆取組1 「ニセコ町小中一貫英語教育カリキュラム」の作成、実施

小中学校の新学習指導要領に基づき、小中学校の円滑な接続を図った「ニセコ町小中一貫英語教育カリキュラム」を作成し、そのカリキュラムをもとに2018年度からの先行実施に取り組む。

① 小中学校の授業改革

- ・学級担任が主体となった授業の確立
- ・授業に向けての事前事後の打合せ時間の確保
- ・コミュニケーション能力の素地を養う学習展開
- ・ALTの効果的活用
- ・教室英語を用いた積極的なコミュニケーション活動の実施
- ・地域の人材を活用した英会話力向上（Englishトライアル）の実施
- ・音声から文字へ円滑に接続する学習活動の実施
- ・クラスルームイングリッシュを活用したオールイングリッシュの授業展開
- ・CAN DO リストの作成と効果的な活用
- ・4技能の統合を図ったコミュニケーション能力を養う学習活動の展開
- ・小学校での外国語活動公開研の開催

② 小中学校の授業交流・連携

- ・町内2小学校及び中学校の相互の授業交流等を通して児童理解・生徒理解を深めるとともに、英語教育にかかる小中学校の円滑な接続について授業研究等の連携を図る。また、卒業学年（6学年）に中学校英語専科教諭による小学校での交流（乗入）授業を行う。

③ 小中一貫英語教育カリキュラムの作成

- ・2020年度全面実施の新学習指導要領に基づき、小中学校の円滑な接続や学年の系統性を考慮した、小中一貫型の英語教育カリキュラムを作成する。2018年度から先行実施し、2020年度に全面実施する。

④ 指導と評価方法の改善・充実

- ・学習到達目標を設定して指導・評価方法を工夫すると共に、主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法等の改善・充実を図る。

◆取組2 新しい英語教育の指導体制の確立

幼児センターから高等学校まで英語指導助手（ALT）を配置し、授業の充実・強化を図る。また、小学校英語専科教員あるいは英語が堪能な地域人材の活用など、学級担任と協働授業を進めるサポート体制を確立して授業の充実を図る。

① 英語指導助手（ALT）の新たな配置

- ・小学校（ニセコ小・近藤小兼務）、中学校、高等学校にそれぞれ1名ずつALTを配置する。
- ・幼児センターは中学校、高等学校ALTが担当し、朝の挨拶交流及び「英語で遊ぼう」の活動を行う。

② 小学校英語専科教員の配置、英語が堪能な地域人材の活用

- ・小学校に専科教員あるいは地域人材を配置し、学級担任との協働授業を充実させる。

③ 小学校教員の英語力向上研修の実施

- ・推進リーダー及び専科教員、民間事業者等を活用し、小学校教員を対象に、協働授業の進め方や授業改善に関わる研修、クラスルームイングリッシュ等英語力向上に関わる実技研修等を定期的実施する。

④ ICT機器を活用した授業の推進

- ・ICT機器を活用した様々な授業を研究・開発し、アクティブラーニングによる英語学習を実現する。

◆取組3 英語を使ったコミュニケーション体験の充実、英語環境の整備、実用英語検定試験の取組

児童生徒が英語で外国人と交流する機会を設け、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。英語を使つてのコミュニケーション体験、思いや考えを発表する活動を計画的に推進する。また、校内掲示の英語コーナーの設置や教室内の英語表示など日常的に英語に触れる機会の拡充を図る。さらに児童英検や実用英語検定などに積極的に受検し資格を取得することを奨励する。

① ニセコ版イングリッシュ・トライアルの実施

- ・ニセコ町CIRやALT、HIS教員、地域に在住する外国人、英語が堪能な地域住民などの協力を得ながら、英語を使つて1対1でコミュニケーションし、日頃の学習の成果を確認すると共に更なる英語力アップへの意欲を向上させる。

② 小中学生の英語での交流・体験活動、英語発表会の実施

- ・校外（スキー場や観光地など）での外国人へのインタビューや観光ガイド、異学年や学校間、HIS生との英語での交流や体験活動、英語劇や校内スピーチコンテスト、英語暗唱大会など、児童生徒が英語を使つていろいろなことに挑戦する機会を推進する。

③ 英語による校内掲示、教室表示の拡充

- ・校内掲示に「英語コーナー」の設置、教室内の英語表示、空き教室の英語教室利用など日常的に英語に触れる機会や場面の拡充を図る。

④ 英語能力判定テスト⇒児童英検、実用英語検定試験への取組

- ・小学校5年生から中学生まで英語能力判定テスト受検の機会を設け、児童英検や実用英語検定試験、TOEFL・TOEIC、iBTなど各種英語資格・検定試験等を積極的に受検し資格を取得することを奨励し、児童生徒の英語力の検証を図る。

5 英語教育推進に向けて

(1) 推進体制

- ニセコスタイルの教育推進委員会英語部会が主体となって、町内幼児センター及び各学校の英語教育を推進する。
- 上記英語部会（以下、部会）は部長（町内学校長又は教頭）及び各学校英語担当教職員、スクールコーディネーターをもって構成する。
- 部会は、ニセコ町英語教育推進プランに基づいて、各校の英語教育を推進する。各校における英語教育の取組の状況や成果について、必要に応じ推進委員会で報告する。

(2) 推進方法

- 必要に応じ部会を年間数回開催し、国の動向や町全体の取組を共通理解するとともに、英語教育の研修会等に積極的に参加し、その内容や情報等を交流する。
- カリキュラムや CANDO リストの作成など作業部会を設けて取り組む。

策定 平成30年3月
ニセコ町教育委員会